

# 学校教育評価表（小・中学校）

令和5年度

学校名

大津市立仰木中学校

評価の基準（3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった）

項目	評価の観点		自己評価 (3・2・1・0)	学校関係者評価 (3・2・1・0)	関連するSDGsの 目標(参考)
主体的・対話的で深い学び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	3	3	
	2	協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	3		
	3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	3		
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	3	3	   
	5	ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	2		
	6	保護者等への道徳科の授業公開	3		
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2	2	 
	8	体力づくりを推進する運動実践	2		
	9	生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2		
指導改善 (組織的・計画的)	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	3	3	 
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	3		
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2		
育ちと学びを支える 連 携					
① 家庭・地域との 連携・協働	13	子育てや家庭教育に対する 保護者への積極的な支援	3	3	   
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	3		
	15	防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	3		
② 保幼小中の 連 携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	3	3	
	17	校種間の授業公開や合同研修会	3		
	18	保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	3		
組織的体制の 充 実					
① 生徒指導体制の 充 実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	3	3	  
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	3		
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	3		
② 特別支援教育の 充 実	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2	3	  
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	3		
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	3		
※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと					
学校満足度	25	児童生徒の学校満足度	3	3	

※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.25
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.12

\* 各校の学校評価書から上記の1~25の観点にかかる自己評価および学校関係者評価結果を取り出し、本表に移記ください。  
 \* 評価の項目と関連があると考えられるSDGsの目標を参考として表示しています。

令和5年度 学校評価書

評価の基準 (3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった)

大津市立仰木中学校

NO.1

	評価の観点	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
		評価	現況	評価	意見・提言等	
主体的・対話的で深い学び	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	3	○昨年度に引き続き今年度は、「生徒のやる気スイッチをどのようにONにできるのか」「やる気スイッチとはどういったものか」をテーマに校内研究を進めた。全教員が教科を横断した小グループに所属し、教科の垣根を越えて授業研究に取り組むとともに、タブレットを活用した「協働的な学び」と「個別最適な学び」の充実を図った。	3	○学習に取り組む姿勢はよかったと思う。 ○授業に向かう生徒の姿勢がよく、いつ見ても落ちついており、又、学ぼうとする意欲、やらなければならないというまじめさがうかがわれる。 ○意見を言う子に対して、肯定的に受け止める様子が見られ、クラスの支持的風土を感じた。 ○集団づくりの項目①で生徒の評価で「そう思う」が60%であることは素晴らしいことだと思います。 ○②の項目で保護者も教員も「そう思う」が3割になっていますが、それは「学校は、もっとできるはずだ」という保護者の期待感と教員の使命感の現れだと思えます。 ○授業の質が高いと感じた。生徒の好奇心、興味を引く語り掛けが行われている。生徒の発言も多く活発でよい。中心的な生徒以外の目立たない生徒の様子にも、目配りをお願いしたい。 ○教員一人一人の意欲的な研究活動が評価されています。 ○ICTを有効に活用し、生徒のやる気スイッチを向上させる学習形態は、知的好奇心や向上心をそそり達成感がある授業づくりとなる。 ○教育内容も時代の変化に合わせて進化しているような気がします。非認知能力は今後ますます必要とされる能力です。AIなんかには負けるな、と応援します。 ○各教室を参観して思うのが、それぞれ先生方が授業に工夫をされていた。とりわけモニターを使って視覚にも訴える教材をうまく使っておられるなあと感じた。いい教材を作るなり、探すには時間が掛かり、大変だと思うが先生方の努力に感謝します。 ○美術部の道草さんとの取り組みのように「さらに追及する」「手応えが感じられる」「周りからの評価が得られる」ような取り組みが、子ども達の自信となり、これからの社会を生きる人として成長するだろうと感じた。 ●生徒間の伝え合う喜びとコミュニケーション能力の育成に努めてほしい。 ●主体的に学ぶ。ずいぶん前から「主体的」な学習を実施していますが、現実、社会に出てその効果は出ているのでしょうか。追跡調査、難しいかもしれませんが知りたいことです。時には難しいことにチャレンジさせて、失敗も経験し、うまくいった時の達成感を体験させるのも必要かもしれません。	◎生徒のやる気スイッチをONにするための校内研究を通して引き続き、ICTを活用した「協働的な学び」と「個別最適な学び」の充実を図る。 ◎校内研究や校内研修でコミュニケーション能力の育成に焦点を当て、実践につながる研修を実施する。 ◎適切な難易度とリアルな課題を視点にした授業で、主体的・対話的で深い学びの具現化を図る。
	2 協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	3	○ICTの活用も交えた新しいコミュニケーションで主体的・対話的で深い学びに関する生徒の肯定的な回答が91%と昨年度より伸びた。	3		
	3 主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	3	○夏季研修会では、非認知能力について学び、校内研究で取り組んでいる内容を整理することができた。	3		
道徳教育の充実	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	3	○保護者、生徒、教員ともに、概ね学校教育全体を通して機会を捉え適切な指導ができていると評価している。具体的な取り組みとして、今年度も学習資料をプリントに統一し、さらに発問や記述がしやすいようなレイアウトに変更した。	3	○協力者会議等で、授業公開を見せていただく機会があり、生徒たちも、授業をしっかり受けている様子であった。また、廊下等で出会うと、どの生徒もあいさつをしっかりしてくれました。 ○保護者への道徳科の公開授業はこれからも続けてほしい。 ○保護者、生徒、教員全てにおいて、90%以上の人が肯定的に捉えているということは素晴らしいことだと思う。 ○人権教育に積極的に取り組んでいるようです。 ●2学期以降に指導者が交替して道徳の授業を実践されているが、その学習効果について教えてほしい。目の前にいる生徒の悩みや苦しみに気づき、適切な指導をお願いしたい。 ●人権教育、道徳は教科によって感じる感じがいろいろあるように思う。又、教員によって教材の生かし方も様々だと思う。教員の評価の通り、教材研究により、授業づくりの充実が大切だと感じる。 ●保護者の評価に対して、教育者評価の差が、研究意識が低い要因を見つけたことが第一ですね。 ●⑤の項目において「そう思う」が教員の1割も満たせず、肯定的に捉えている人が5割ほどであることは、やはり専門分野ではない難しさや日常の忙しさもあるのではないかと感じる。 ●数学のような定量的に評価できる学科に対し、定性的にしか評価できない道徳教育の評価は難しい。一般的な話になるが、現在の大人社会の価値観を押し付けることなく、豊かな感性を育てる教育を望む。 ●道徳は教えるのに難しい教科だと思うが、道徳も人権も常に意識し、繰り返し考えたいもの。学校教育の中で最も大切だといっても過言ではない。 ●授業内容について、教員の評価が厳しいのは理解できるが、生徒、保護者の評価が高く、十分だと考えます。ただ、教員の評価が今年度は特に低いことは、課題が潜んでいることも考えられます。 ●道徳教育の成果は価値をすぐに表現できるものではなく、常に日常生活にも目を向けて取り組む必要があり、今後も続けてほしい。 ●いじめの標語を拝見したがなかなか難しいのか、よく似た標語が多かった。頑張った結果なのならいいが本当にいじめについて考えたならもう少し違う標語が出ていてもいいのかなあと感じました。 ●先生方の研究に期待している。 ●地域、保護者にも指導(発信)してほしい。 ●いじめ防止や道徳は風土作りは生徒向けだけではできない。大人と社会ぐるみで取り組みたいものですね。 ●いじめは人間の本能として無くならないものです。しかし、その芽を摘んだり、迅速かつ適切な対応はできるはずで、今後も期待します。	◎いじめ防止に関する取り組みや標語づくりについて見直し、いのちやいじめについて深く考えられる教材や活動の工夫改善を行う。 ◎人権教育を継続・強化していくために、人権問題について系統的に学習できるように組み立てる。 ◎道徳科の教材研究に注力し、授業づくりの充実を図っていく。 ◎道徳科の公開授業を継続し、地域・保護者にも時期を逃さず発信していく。
	5 ものこを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	2	○昨年度に引き続き2学期以降は指導者が代わるローテーション道徳を実施した。各教員に一つの教材を割り当てることで、教材研究を深めることができた。 ○11月1日には公開授業を行い、担任による道徳の授業を地域の方や保護者に参観してもらうことができた。	3		
	6 保護者等への道徳科の授業公開	3	●保護者の約90%が肯定的な評価である一方で、教員の評価では研究意識が低いという結果になっていることが課題である。複数の教員で教材について話し合い考える機会を設け、研究意欲を高める必要がある。	3		
体力づくり	7 たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2	○90%を超える肯定的な評価であった。肯定的な評価が毎年増加しているのは、マスク着用の制限が緩和され、部活動や授業、体育的行事において充実した活動ができたことが反映していると考えられる。	2	○コロナ対策が緩和され世の中と平行して中学校生活も徐々に開放的になってきていると思う運動会を拝見したがどの種目も見応えがありました。とりわけ全員リレーはどの子も一生懸命走っている姿に感動しました。 ○体育祭を見せていただき、生徒一人ひとりが生き生きとしている様子が見られた。 ○肯定的な評価が90%を超えているのは素晴らしいと思う。 ○スポーツ大会の成績からして、十分ではないか。生徒集団の平均的な体力が高くなければ、優秀な成績は取れないと思う。 ○体格の良い生徒が多く驚いた。 ○レクリエーション要素が多い点については、体力づくり=苦みを伴う、ような取り組みだけではなくて知ってほしいので、むしろよいと感じる。 ○地域部活動移行について今後、協力できるところはしていきたい。 ○部活動は仲間づくり・チームビルディングの要素と生涯をたくましく生きる体そしてこころづくりの場です。工夫しながらすすめていると思います。 ●「たくましい心」を育てる授業実践とはどのようなものか。 ●教員評価が「2」だということは工夫の余地があるということなのでしょうか。 ●体づくりは精神面での育ちにもつながるので、運動に取り組む機会を、ぜひ増やしていただきたいと思う。 ●90%を超える肯定評価でありながら、教員評価が「2」の理由がわからない。 ●部活動の縮小で、体育の授業の意義が高まる理由がわからない。 ●全体的に努力を要する。 ●働き方改革に伴う、部活動縮小は、必要なことだと思います。違う方向から工夫をお願いします。 ●コロナ禍で、3年間がほぼ停止していたものを元に戻すのは難しいことであるが、徐々にでももとに戻して欲しい。 ●学区エリアは坂道が多く登下校で少しは基礎体力作りには繋がっていると思います。運動クラブに入っていない生徒の体力向上が懸念であれば、冬の間持久走を採り入れ最終、駅伝大会など設ければどうでしょうか？目的無い持久走はしんどいと思いますが一つの目標を掲げることにモチベーションが上がると感じます。 ●運動が苦手な生徒に対してもしっかり体力づくりができることが大事なので、ますます体育の授業での取り組みを頑張ってください。	◎保健体育の授業や学校行事、運動部活動の時間だけでなく、学年行事や学級活動において健康維持とともに、体力向上につながる取り組みを、意識的に取り入れる。
	8 体力づくりを推進する運動実践	2	●本校の体育祭はレクリエーション要素を多く取り入れ、仲間づくりの要素が高まっていることから、体力づくりの側面は大きくない。また、運動部所属の割合の高さに頼っているところもある。	2		
	9 生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2	●今後、本校における体力づくりの取り組みは、部活動縮小や体育的行事の内容によっては、体育の授業の意義がより高まると考える。	2		
(組織的・計画的)	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	3	○今年度も、生徒が自分の考えを述べたり、文章で表現したりするアウトプット型の授業を提供するために、全教員が授業改善に取り組んだ。 ○生徒の学習意欲を引き出すための興味付け(やる気スイッチ)について研修を行いながら指導力向上に努めた。	3	○一方通行の授業でなく生徒が積極的に授業に関わり、先生とのキャッチボールができていた。 ○平日はもとより休日朝早くから出勤しているようですが、もっと先生の負担を減らしましょう。 ○働き方改善については保護者の理解を得ることよりも、先生方一人ひとりの考え方によって大きく改善されるのではないかと感じる。 ○授業がわかりやすいと評価している生徒が9割近くいることは大変素晴らしい。 ○働き方改善について、先生方はたくさんの業務をこなしておられると思います。今後も、効率化の工夫をしてお身体を大切にしてください。 ●学力向上のためには、学びたい意欲の向上、認められることによる自己肯定感の向上が必要だと感じる。アウトプット型の授業、やる気スイッチを求めた研修の積み重ねに期待する。 ●家庭学習については、塾に通っている生徒も多く、宿題、課題の出し方は苦慮されているのではと思う。 ●学習習慣については、継続した指導に期待します。 ●PCやタブレットを使った授業改善は、大きく進んでいったように思うが、ICT活用は方法論であり、授業改善の内容論も深めていってほしい。 ●わからないと思っている生徒を、さらに減らすのはかなり難しい。頑張ってください。 ●部活指導のための休日出勤等、生徒の思いを叶えようとして、地域の要請に答えようとすると自然に教員は多忙になってくる。どうしたものかと考えてしまいます。 ●働き方改善、改革は、国内で推進されていることとは理解するが、現状、先生の数でこれに対応するのは無理である。根本的には、教育委員会の問題である。 ●働き方改善については外からだけしかわかりませんが教員不足からくる長時間労働、その弊害が先生方の健康(心と体)状態に心配を覚えます。また、生徒や親、同僚との人間関係も良いときは良いのですがひとたび崩れると相談できたりしているのでしょうか？できるだけコミュニケーションを計り、早期解決ができるような体制を維持して欲しいです。	◎生徒の学習意欲を引き出し、持続させるためのやる気スイッチに関する校内研究を、さらに深化・発展させる。 ◎生徒の思いを叶えるための取り組みや地域の要請に学校がどのような形なら対応できるかについて検討していく。 ◎引き続きアウトプット型の授業を意識して、どの教科も取り組む。
	11 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	3	○授業がわかりやすいと肯定的に捉えている生徒が88%に増加した。	3		
	12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2	●学習習慣については、昨年度より若干数値を伸ばしたものの今後も課題である。 ●働き方改善については、保護者の理解を得ようになってきたが、まだまだ十分な取り組みができていないと教職員は感じている。	3		

令和5年度 学校評価書

評価の基準（3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった）

大津市立仰木中学校

NO.2

	評価の観点	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
		評価	現況	評価	意見・提言等	
家庭・地域との連携・協働	13 子育てや家庭教育に対する 保護者への積極的な支援	3	○保護者や地域に向けて、学校だよりや各種通信、広報誌の発行、ホームページの更新などによる情報発信に努めた。	3	○保護者への情報発信については、内容、回数など適切に実施されている。 ○里フェスタへの生徒の参画等により、地域とのつながりがもてていると思う。 ○学校は保護者や地域に積極的に働きかけてくれていると思っています。 ○中学校の取り組みを地域に発信して下さることで、とても分かりやすいです。 ○生徒の満足度は、なかなか厳しいものの、保護者、教師の満足度が高く評価できます。 ○中学生になると地域のハードルが高くなるので、「行事」の中での活躍が増えてきたので良かった。（里フェス、夏まつりなど） ○近年、仰木中の地域との連携は意欲的で積極的な生徒会の取り組みが良い。 ○ニュースなど拝見していると学区の様子がよくわかり学校生活が充実しているだろうというのが伝わってきます。 ●自分の住む街が好きになるような地域連携が大切だと感じている。 ●地域との交流については、生徒一人一人の活動ではなく、教員が、地域と相談して背中を押してあげてほしい。 ●昨年の仰木の里フェスタに吹奏楽部、美術部が参加したように、運動部も地域の活動に参加するものがあったのもよいかもしれません。 ●仰木の里も来年度からまちづくり協議会が発足します。従来の各種団体の活動と合わせ部会単位での活動にもご協力をお願いします。 ●生徒の評価と乖離した項目、なぜそうなったのか検討してください。 ●地域からは保護者の様子が見えにくく、状況がよくわからないが、通信のツールが増え、情報発信が多ければ、保護者側はありがたいと思う。 ●各種団体の地域行事への連携もお願いします。 ●1月1日の能登の地震をふまえ、防災への意識はさらに高めていく必要があります。 ●地域での防災訓練の参加を促したいです。実際に被災すると頼りになるのは中学生です。地域の中の一員を言うことを実感してもらえんと思ひます。	◎引き続き、地域行事への生徒の参加を推奨し、地域とのつながりを強化していく。 ◎引き続き、地域や生徒・保護者への情報発信に努め、地域とともにある学校を目指す。教育環境や地域との関係を更に向上させていきたい。 ◎年間3回の避難訓練を通じて、防災への意識を高め、教職員に必要な対応力を向上させる。 ◎地域の防災訓練への参加、または、地域人材を活用した防災教育を検討していきたい。
	14 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	3	○学校協力者会議をはじめとする様々な会議や情報交換会を通して、地域との交流を図った。	3	○中学校との職場体験は、子どもたちにとって、よいつながりの機会になったように思います。 ○家庭科の幼児とのふれあい体験、美術科のビー玉スライダー交流では、子ども同士のふれあいに、実体験を通して気持ちの通い合いができた。 ○仰木サミットの活動はとても大事な活動であると思う。 ○仰木教、仰木サミット等で、しっかりと連携を回れていると感じています。 ○生徒会が良くリードして小学生の良い見本となっている。 ○学級、学年閉鎖が多い中、充実した連携が図られている。先生方には頭が下がります。 ○コロナの5類以降は、大きな日常の変化を実感しました。 ○小中学校とも連携したり地域事業者と協働したり、地域のお祭りのフェスタにも参加したり頑張ってるなあと思いますが、その中に楽しさを見いだして活動していることが素晴らしいと思います ●連携、交流の年間計画を教えてくださいありがとうございます。 ●新型コロナ感染症の位置づけが変わり、状況が変化した中、仰木サミットを活性化することに期待します。 ●互恵性のある活動にするためには今後とも、事前にねらいや子供の姿の共有が必要であると思われる。 ●さらに発展して欲しいと思う。	◎保幼小中の連携を強化するためにも、互いの授業参観や出前授業を積極的にやりたい。 ◎仰木サミットでは、さらに中学校生徒会がリードして、地域につながる方策を考えさせたい。 ◎連携や交流を年間計画に位置づけ、ねらいをもって取り組む。 ◎活動の中に楽しさを見だし、子供たちが参加することで意義ある体験を提供する。 ◎今後も校種間の連携を重視し、生徒たちにとって有益な経験やふれあいの機会を提供し、それらの活動を継続的かつ持続可能なものにしていきたい。
	15 防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	3	○年間3回の避難訓練を通して、防災への意識を高めるとともに、教職員に何が必要とされているか確認することができた。	3	○「仰木サミット」と称する地域・生徒間交流を再開し、生徒会を中心に取り組みが進んだ。	◎生徒指導・教育相談・特別支援教育の視点を生かし、連携を密にしながら指導・支援にあたる。 ◎学校全体が安全で安心な雰囲気であることを維持し、学習環境において生徒が集中できるよう努める。 ◎いじめや生徒指導上の課題に対する対応がよりきめ細やかに行えるよう、関係機関との連携を強化する。 ◎家庭との連携を強化し、生徒指導の推進を図る。学校満足度の低い生徒がいることを踏まえ、その要因を様々な角度から改善に努める。 ◎生徒が安心して相談できる仕組みを整える。
保幼小中の連携	16 子どもの校種間交流や教員の出前授業	3	○年間を通して連携事業が計画されており、仰木教の5つの部会で研究・研修を行うことが継続的にできている。	3	○生徒の評価が高く、意欲的、効果的に指導されていると思います。 ○全般的にも落ち着いた学習風景が見られ安全安心な雰囲気がある。 ○いろいろなケースへの対応に心をくだいてくださっていることと思う。 ○様々な相談体制については教員は気を配り協力されているのだと思う。生徒の方は自分に必要性を感じていない生徒が多く、肯定する生徒が6~7割なのだと思う。 ●この分野は、手が足りていないのが一般的かと思うので、願わくは、もっと人員を増やしてほしい。（国か市か？） ●家庭との連携を重点に置いた生徒指導の推進を図ってください。 ●学校満足度で8%の生徒が満足していない理由が気になります。もしいじめが原因であるなら、家庭での相談比率が少ないことから相談の持つて行き先がないと心配です。 ●いろいろな機関との連携により、よりきめ細やかな対応が必要だと思う。 ●仰木サミットの公開で、地域との交流方法を考えてほしい。	◎特別支援コーディネーターを中心に、特別支援教育体制を整え、関係機関との連携による研修や専門的な指導助言を受ける機会を設けることができた。 ●学級担任を中心に保護者と連携して作成している「個別の指導計画」を効果的に活用できるように、学年で作成して情報を共有するなどのシステム作りが必要であると考える。
	17 校種間の授業公開や合同研修会	3	○小中の連携として、互いの授業参観や情報共有もしている。	3	○特別支援教育体制を整え、教職員での共有をされていると思います。 ●学校教育推進の重点の柱として、特別支援教育の充実を進めてください。 ●組織的、継続的に特支教育を進めていく難しさを感じる。 ●教員の肯定的な意見が年々減っているのは気になる。おそらく通常学級にも支援を要する生徒がいて、その子に対する取り組みの方が大事なのではないかと。 ●体制と意識作りをより充実させることを期待します。 ●個々に課題を持つ生徒は、いつも、どの学校にもいるが、もう少し攻めの教育が欲しい。 ●学期毎に計画を立て、支援の在り方を共有することが必要だと感じている。 ●中学は複数の教師で生徒を見ている分、会議が必要になっていくが、多忙な中、なんと子どもたちに寄り添って頑張っていってほしい。	◎特別支援コーディネーターを中心に、特別支援教育体制を整え、関係機関との連携や研修等で、専門的な指導助言を受ける機会を継続して設ける。 ◎個別の支援について共通理解・共通実践できるよう、学年部会等で、そのための時間を設ける。
	18 保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	3	○「仰木サミット」と称する地域・生徒間交流を再開し、生徒会を中心に取り組みが進んだ。	3	○アンケート調査の結果は素晴らしい。この数字を維持できるように努めてください。 ○学校満足度がそが全体の評価として大切であり、それが9割を超えていることはとても素晴らしいことだと思う。 ○生徒92%が楽しく学校生活を送れているのは良いことである。 ○学校、教室の雰囲気明るく、素晴らしい学校であると伝わってくる。 ○学校評価の高さの裏には、先生方の努力も感じとれました。地域の一員として、今後も子どもたちに気軽に声をかけていきたいです。ありがとうございました。 ○子ども達が、喜んで学校生活を過ごせるのが何より大切である。 ○登下校時下を向いている生徒が少なくなったような気がします。特に下校時はわいわいがやがやと楽しそうなのが嬉しい。 ○今年度は、文化祭、体育祭を見学させていただきました。やらされているというより、自分たちでやっているという感じをうけました。 ○とても良い取り組みをされていると思います。 ○生徒の「そう思う」がさらに増え7割を超えるよう頑張ってください。 ●学校が好きと思える生徒、教員であることが大きな目標だと思う。 ●いずれも素晴らしい数字ですが満足していない8%の生徒たちに焦点を当てていただいて原因を取り除いていただき100%満足を目指してほしいです。	◎生徒が保幼小中の連携を重視し、生徒たちにとって有益な経験やふれあいの機会を提供し、それらの活動を継続的かつ持続可能なものにしていきたい。
生徒指導体制の充実	19 いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	3	○学校は、生徒指導・教育相談・特別支援教育の視点を生かし、連携を密にしながら指導・支援にあたっている。	3	◎生徒が安心して相談できる仕組みを整える。	
	20 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	3	●生徒・保護者のいじめを許さない態度や意識も少しずつ向上してきており、今後も、組織的な取り組みを進め、さらに機能を高めていく必要がある。	3	◎生徒が安心して相談できる仕組みを整える。	
	21 家庭・地域・関係機関との連携による指導	3		3		
特別支援教育の充実	22 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2	○特別支援コーディネーターを中心に、特別支援教育体制を整え、関係機関との連携による研修や専門的な指導助言を受ける機会を設けることができた。	3	◎特別支援コーディネーターを中心に、特別支援教育体制を整え、関係機関との連携や研修等で、専門的な指導助言を受ける機会を継続して設ける。 ◎個別の支援について共通理解・共通実践できるよう、学年部会等で、そのための時間を設ける。	
	23 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	3	●学級担任を中心に保護者と連携して作成している「個別の指導計画」を効果的に活用できるように、学年で作成して情報を共有するなどのシステム作りが必要であると考える。	3		
	24 関係機関と連携した相談体制の充実	3		3		
学校満足度	25 児童生徒の学校満足度	3	○生徒・保護者アンケートの「全般的に楽しく学校生活を楽しんでいるか」の質問について、生徒92%、保護者90%、教員97%が肯定的に捉えており、良好な学校生活を送れている状態にあると考える。	3	◎生徒が保幼小中の連携を重視し、生徒たちにとって有益な経験やふれあいの機会を提供し、それらの活動を継続的かつ持続可能なものにしていきたい。	